

注:太字は定期接種(一定の年齢、月齢で原則としてすべての子どもに接種)、細字は一部の特定対象者に接種。

予防接種種類	出生時	1m	2m	4m	6m	12m	15m	18m	2y	4-6y	11-12y	18y~	成人
BCG <sup>*1</sup> TB(tuberculosis)													
DPT(三種混合) <sup>*2</sup> Diphtheria,Pertussis,Tetanus			DTaP① <sup>*12</sup>	DTaP②	DTaP③		DTaP④			DTaP⑤	Tdap <sup>*13</sup>		
ポリオ <sup>*3</sup> Poliomyelitis			IPV① <sup>*12</sup>	IPV②	IPV③					IPV④			
B型肝炎 <sup>*4</sup> Hepatitis B	HepB①	HepB② <sup>*12</sup>			HepB③							HepB	
Hib <sup>*5</sup> Haemophilus influenzae type b			Hib① <sup>*12</sup>	Hib②	Hib③	Hib④							
肺炎球菌(小児用) <sup>*6</sup> Pneumococcus			PCV①	PCV②	PCV③	PCV④							
ロタウイルス <sup>*7</sup> Rotavirus			RV①	RV②	RV(③)								
MMR <sup>*8</sup> Measles,Mumps,Rubella						MMR①				MMR②			
麻疹 Measles													
おたふくかぜ Mumps													
風疹 Rubella													
水痘 Chickenpox (Varicella)						水痘①				水痘②			Zoster:60
インフルエンザ Influenza						Influenza <sup>*14</sup>							高年者
A型肝炎 <sup>*9</sup> Hepatitis A						HepA①、②(6m以上あけて)		HepA①、②(地域により2歳以上の未接種者にも)					
髄膜炎菌 <sup>*10</sup> Meningococcus											MenACWY①	MenACWY②	
日本脳炎 Japanese Encephalitis													
パピローマウイルス <sup>*11</sup> Human papillomavirus											HPV①、②、③		
肺炎球菌(成人)													PS :65y

《以下は一般の方にも理解していただくために本図作成者が加えた説明です》

- \*1 BCGは結核のリスクが低下した先進国で定期接種されていない国があります。一方、発展途上国の多くでは出生時(新生児期)に接種します。
- \*2 日本ではDPTですが一般には“DTP”と表現されます。先進国では精製百日咳ワクチンを含むDTaP(わが国もDTaP)が、発展途上国では百日咳菌体ワクチンを含むDTwPワクチンが主流です。
- \*3 ポリオワクチンには、経口生ワクチン(OPV)と、不活化ワクチン(IPV)とがあります。ほとんどの先進国ではIPVが主流になっています。わが国では2012年9月からIPVに切り替えられました。
- \*4 WHO(世界保健機関)はB型肝炎ワクチンをすべての子どもに接種するように勧告しており、現在では世界のほとんどの国で乳児期の定期接種に加えられています。
- \*5 Hib(Haemophilus influenzae type b:インフルエンザ菌b型)は乳幼児の細菌性髄膜炎の主要な原因菌です。PedvaxHib、COMBVAX(いずれも日本では使用されていない)の場合は6か月時は不要。
- \*6 肺炎球菌は乳幼児の細菌性髄膜炎の主要な原因菌であり、肺炎や中耳炎の原因ともなります。乳児期からの接種は結合型肺炎球菌ワクチン(Pneumo-conj=PCV)です。米国では現在13価ワクチンです。
- \*7 ロタウイルスは乳幼児の感染性胃腸炎の主要な原因ウイルスです。ロタウイルスワクチンはいずれも経口生ワクチンで2種類(2回投与のロタリックスと3回投与のロタテック)が使用されています。
- \*8 MMRワクチンは麻疹、おたふくかぜ、風疹の混合ワクチンです。世界中で広く使用されており、MRワクチン(麻疹+風疹)は少数派です。
- \*9 A型肝炎は生の食べ物や飲み物を通じて経口感染するウイルス性肝炎です。食品衛生環境の不良な地域ではリスクが高まります。米国では6~18か月間隔で2回接種(日本では通常3回)です。
- \*10 髄膜炎菌はHibや肺炎球菌と異なり、年長児や成人でも髄膜炎の原因となります。補体欠損症などリスクの高い一部の子ども(2歳以上)にも接種します。米国ではB群髄膜炎菌のワクチンも市販されています(10歳以上)。わが国では4価髄膜炎菌結合型ワクチンMenACWY(メナクトラ)が市販されています。
- \*11 HPV(ヒトパピローマウイルス)は子宮頸がんなどの原因となるウイルスです。サーバリックス(Cervarix:2価)は0、1、6か月、とガーダシル(Gardasil:4価、9価)は0、2、6か月の3回接種です。同一種類で完了します。米国では男子にも定期接種ですが男子には4価または9価のガーダシルだけが使用できます。
- \*12 DTaP、IPV、B型肝炎、Hibの各ワクチンはいろいろな組み合わせの混合ワクチンとして接種されています。
- \*13 Tdap: 年長児ないし成人用に成分調整された破傷風、ジフテリア、百日咳三種混合ワクチンです。日本では市販されていません。
- \*14 米国ではインフルエンザワクチンは生後6か月から定期接種です。初年度は4週間以上の間隔で2回、以後の追加は年に1回です。ACIPは6か月以上のすべての子供に毎年投与する、としています。不活化ワクチンと生ワクチン(2歳以上)のいずれもが使用されています。

《2014年7月15日版からの主な記載変更事項》

- 1) 9価のHPVワクチン(9価ガーダシル)が使用できるようになりました。